

へるす・りさーち

名古屋市衛生研究所だより No. 13

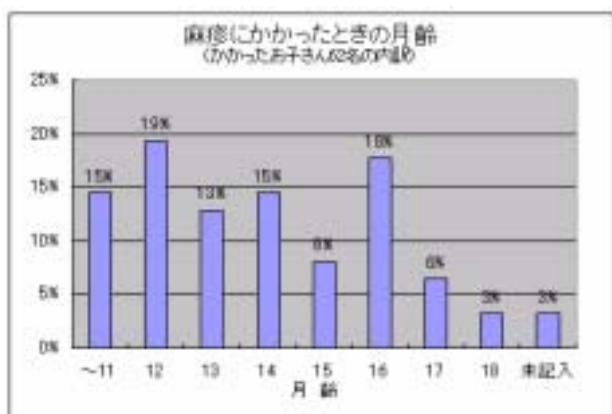
「麻疹（はしか）とご家族の生活について のおたずね」アンケート集計結果

麻疹は予防接種により根絶可能な疾患とされ、すでに南北アメリカやヨーロッパ諸国では根絶に近い状態にあります。しかし、日本では毎年10～20万人が麻疹にかかり、死亡者もでています。麻疹撲滅のためにはまず現状把握が必要と考え、1歳6か月健診受診者へのアンケート調査を行いましたので、集計結果を報告します。

調査期間：平成14年8月から10月上旬
対象：保健所の1歳6か月健診受診者の親
回収率：75%（2,575件中1,931件回収）

◆ 麻疹の既往歴

1歳6か月健診時で、すでに麻疹に「かかった」ことがあるお子さんは62名（3%）もいました。



麻疹にかかったお子さんのうち、52名（84%）が生後12か月以降に麻疹にかかっていました。麻疹の予防接種は生後12か月から接種することができます。

麻疹予防接種の接種率

85%（1,641名）のお子さんが、予防接種をすませていました。しかし、今回の調査の回収率は75%であったため、実際の接種率はもう少し低いと思われます。麻疹の予防接種は生後12か月からが公費負担の対象になります。12か月を過ぎたらすぐに接種しないと感染を効果的に防ぐことができません。

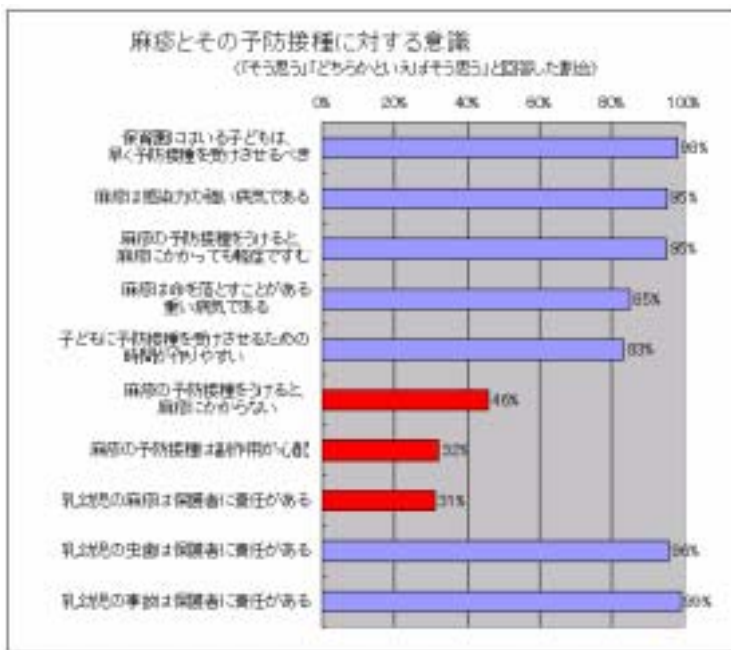
予防接種未接種の理由

予防接種を受けていなかったお子さんについては、その理由について、おたずねしました。最も多かったのが「(行こうと思っていたが)子どもが急に体調を崩したから」で、40%でした。ついで、「他の予防接種と重なった」19%、「忙しい」18%でした。小さなお子さんは急に体調を崩すことも多いため、体調の良いときにできるだけ早めに予防接種を受けるようにしないと、なかなかすべての予防接種を終わらせることはできません。また、麻疹は重症化すると死亡したり脳炎をおこしたりする病気なので、他の予防接種とスケジュールが重なっても、まずは麻疹の予防接種を済ませることが必要です。

麻疹とその予防接種に関する意識調査

「麻疹は感染力が強い」「かかると重い病気」など、麻疹という病気に対する認識は回答者のほとんどの方が正しくもたれていました。しかし、「麻疹の予防接種に対する信頼性」は46%と低く、「副作用に対する不安」も32%の方がお持ちでした。

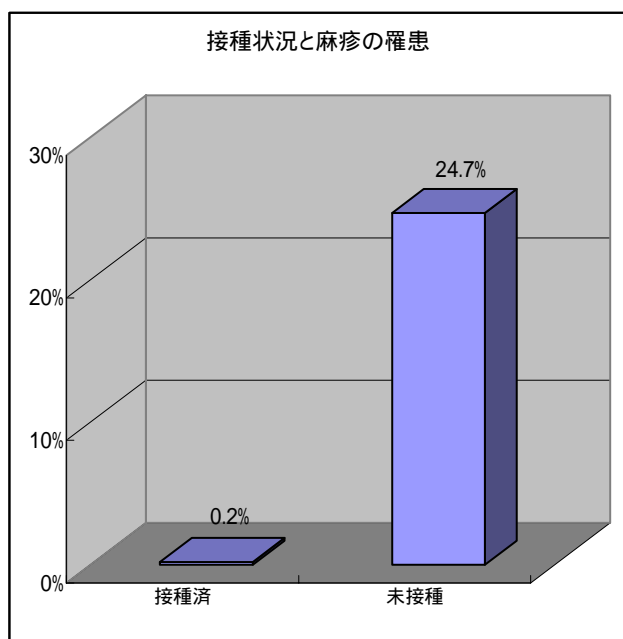
また、麻疹の予防接種に対する信頼が低いと、



お子さんに接種させにくい傾向にあることがわかりました。

麻疹の予防接種(ワクチン)の効果について

今回の調査では、予防接種を受けていないお子さんの方が受けているお子さんに比べて



120 倍以上の高い確率で麻疹にかかっていたことがわかりました。アンケートにお答えいただいたお子さんたちが全員麻疹ウイルスにさらされたと仮定すると、**ワクチンによる予防効果は 99%以上**であることが計算されました。麻疹を予防するには予防接種が最も効果的な手段です。

まとめ

このアンケート調査では、1歳6か月健診までに接種をすまされたお子さんの割合は85%でした。結構高い数字と思われるかもしれませんが麻疹対策の進んでいる欧米諸国に比べるとまだまだ不十分です。この数字では集団感染が起こり得るからです。今後厚生労働省は「接種標準年齢」を12～15か月に設定して接種率の向上を目指します。1歳6か月の段階でまだ接種をすまされていない方、とりわけ保育園等に通ってらっしゃる方はぜひ接種をお急ぎください。

麻疹の予防接種に対する皆様のお考えをうかがいましたが、効果や副作用について否定的な意見が目立ちました。私ども予防接種にたずさわる行政の側の努力不足も痛感したところです。事実、予防接種はきわめて有効な予防手段です。「すでに麻疹にかかった方」62名の中で、接種済みのお子さんに対して受けていないおさんは120倍以上の高い確率で麻疹にかかっていたことでもわかります。

本来接種の対象年齢に達していない1歳未満の乳児がかなり麻疹にかかっています。さらに、死亡者のほとんどは4歳以下の乳幼児です。1歳早期の接種率をより高めて他の人に感染させない衛生状況をつくりたいものです。とにかく1歳の誕生日になったら麻疹の予防接種の日程を決めて早めに接種しましょう。



* ほんとうに多くの皆様のご回答、ありがとうございました。

アンケート結果の詳細は、名古屋市ホームページ内「衛生研究所ホームページ」(<http://www.city.nagoya.jp/10eisei/ngyeiken/index.html>)にて公開しています。